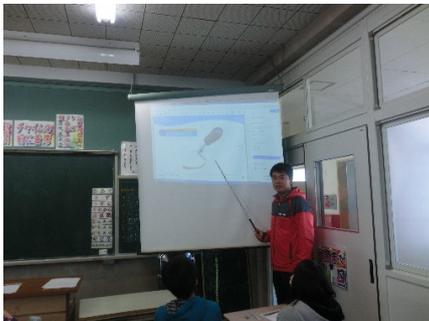


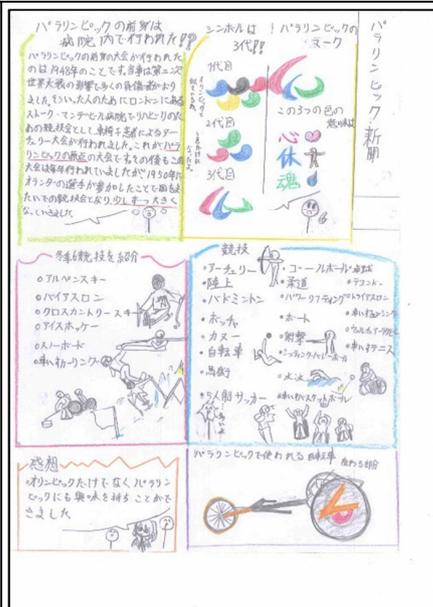
平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【愛媛県】

| | |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ | 【I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び】 |
| 2 実施対象者 | 宇和島市立和霊小学校 第4学年65名 第5学年60名（特別支援学級児童含む） 第6学年81名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間、体育） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ） |
| 4 目標 (ねらい) | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、オリンピック・パラリンピック教育への関心を高め、スポーツを通して、知・徳・体の調和の取れた人材を育成する。また、スポーツの価値や効果の再認識を図り、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材の育成を図る。 |
| 5 取組内容 | (1) 事前学習（8時間） ア 「オリンピック・パラリンピックについて知ろう！」（1時間） ○ 映像資料「I' mPOSSIBLE」を見ながら、オリンピック・パラリンピックに関するクイズに取り組み、オリンピック・パラリンピックの概要を学ぶ。   イ 「オリンピック・パラリンピック調査隊」（2時間） ○ 自己の課題を設定し、インターネットを活用してオリンピック・パラリンピックについて調べ、新聞にまとめて発表する。 |



ウ 「ゴールボールを体験しよう！」(1時間)

- DVDを視聴して、ゲームの進め方やルールを学ぶ。
- 黒のアイシェードを着けて全く何も見えない状態になり、ボールの中に入っている鈴の音を頼りに、位置や動きをつかみながらゲームを行った。本来は、コート内の枠に凸凹のあるマーキング(ロープ)を施し、感触で自分の位置を把握できるようにするが、今回はガムテープで代用して行った。
- 人数が多いので、プレーしない児童の待ち時間が長くなりすぎないように1チームの人数を増やし、2面で実施した。



1 ゴールボールをやってみた感想を書こう。

目が見えなかったので、今どのような状態で、ボールはどこにあるかが分からず、不安な気持ちがありました。でも、鈴の音や実音などがあり、思っていたより、おもしろかったです。

2 ゴールボールとはどんなスポーツかな？
おうちの人に説明するつもりで書いてみよう。

アイシェード(アイマスク?)をつけて、ボールの中に入らずか入ったものをなげます。相手は音がしたほうに行き、ボールをとりまわるとれながら負けるとれたらすぐにボールをなげかえします。それを4分間くり返します。そして多くゴールを決めたほうが勝ちです。場所をわかりやすくするのにガムテープを貼ります。



エ 「パラリンピアンを知ろう！」(2時間)

- 講師で来ていただく鈴木徹氏(パラリンピック陸上競技・走り高跳び選手)について調べる。

鈴木・徹さんについて

データ

- 1980年・5/4生まれ
- 片下腿義足の陸上競技選手
- 山梨県出身の38さい
- 身長178cmの体重64kg

自己ベスト

種目:走り高跳びT44
記録:2m 02
樹立日:2016年5/21

受賞

- 山梨県イメージアップ大賞
- 山梨スポーツ記者会賞
- 山梨陸上競技協会特別優待選手
- 第41回野口實体育スポーツ部門



義足になった理由

自動車事故
高校卒業式・1週間前のこと。



野口實受賞とは...

山梨県内の優れた研究者スポーツ選手に与えられるもの。

義足になってもあきらめなかった鈴木選手

事故の後手術の際に、「命をとるか、足をとるか」と、迷われ
当時、ハンドボールの選手だった鈴木選手は、足をえらびました。
そして義足になり、日本代表をあきらめず、という所、陸上選手
として、日本代表になろうと決めたのです。
そして、持ち直しの運動神経を生かし、ひととん記録を伸ばし
ました。そして、アジア初、2mをこえ、本大会の2m
を決めたのです。

感想

どのような人がまちなまえていて、
あきらめがのりこえることが大切なんだ”と
思いました。



主な成績

| | | |
|-----------|-----------|----------------------|
| <u>1位</u> | 2014年 10月 | 2014アジアパラ競技大会 |
| | 2016年 5月 | 2016IPC陸上競技GPリオ |
| <u>2位</u> | 2005年 5月 | 11パラリンピックワールドカップ2005 |
| | 2006年 5月 | 11パラリンピックワールドカップ2006 |
| | 2006年 9月 | 2006IPC陸上競技世界選手権大会 |
| <u>3位</u> | 2010年 12月 | 2010アジアパラ競技大会 |
| | 2017年 7月 | 世界パラ陸上競技選手権大会2017 |

(2) パラリンピアン(鈴木徹氏:陸上競技・走り高跳び選手)による講演(1時間)



(3) パラリンピアン(鈴木徹氏:陸上競技選手・走り高跳び)による実技指導(1時間)



(4) 事後学習(2時間)

ア 「オリンピック・パラリンピックを広めよう！」

- 自分たちが作成したオリンピック・パラリンピック新聞を掲示して、全校のみんなに知らせる。

イ 「オリンピック・パラリンピック学習を振り返ろう！」

- パラリンピアンから学んだことや感じたことを振り返り、学習のまとめをする。

◎ 鈴木徹さんのお話や実技の感想を書きましょう。

鈴木さんは、高校2年生の時に、足を失い、義足となりました。そこから、自分が好きな陸上の道を選び、今は五大会連続出場となり日本の代表として世界と戦っています。私はとてもすごいなと思います。小学校の言葉が上手く話せずいじめにあっても、自分が好きな体育の授業があるから、学校に行くから自分は夢中になっていることが、楽しかったなと思います。だから、今も、世界の舞台に立てているんだなと思います。実技では、高さがけっこうありましたか、軽々ときれいに飛びこえ、思わず拍手をしてしまいました。ご指導される時、中にいっしょになって、運動をする鈴木さんが輝いて見えました。そのくらい、心から運動が好きなんだなと思いました。私も、何事にも全力で取り組み、夢中になりながら、挑戦していきたいです。

◎ 鈴木徹さんのお話や実技の感想を書きましょう。

鈴木徹さんは、とてもかまぼこ人、努力する人、あきらめな人だと思えます。なぜなら、自分がおこしてしまっ車の事故で右足を失い、それでも「高とび」という競技でパラリンピックに出て、そして金メダル、銀メダル、銅メダル、すべてとっています。私は絶対にそんなことできないと思います。なぜなら私はしんといことを毎日1人で乗りこえられないからです。今は駅伝や陸上では先生がいて、「かまぼこ」や「あ」と少しなど見守ってもらい、やらなくてはいけないからやっています。だけどこれからは自分一人では始められませんが、なので鈴木徹さんはずいぶん偉い人だと思いました。実技では高とびの基本を教えてもらい、みんなでやったのでとても楽しかったです。これから私ほとくいなスポーツを見つけてかまぼこたいです。

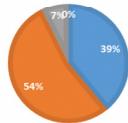
6 主な成果

- (1) クイズや映像資料「I' mPOSSIBLE」を用いた事前学習により、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、理念、競技種目についての理解を深めることができた。
- (2) 視覚に障がいがあってもできるように工夫された競技の体験を通して、普段とは異なる感覚を研ぎ澄まして目的を達成する面白さを知り、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さについて考えることができた。また、パラリンピック競技への興味・関心を高め、フェアプレーやチームワークの精神を身に付けさせることができた。
- (3) パラリンピアンによる講演と実技において、一流の選手の生き方や考え方を学ぶだけでなく、障がいを理解する心のバリアフリーを児童に浸透させることができた。
- (4) 事後学習のアンケート結果から、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心や2020年東京大会を実際に見てみたいという思いが高まったことが分かった。

【アンケート結果】

1 学習を通して、オリンピックに興味がありましたか。

■とても興味があった ■興味があった
■あまり興味がなかった ■興味なかった



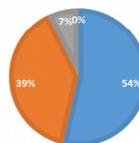
2 学習を通して、パラリンピックに興味がありましたか。

■とても興味があった ■興味があった
■あまり興味がなかった ■興味なかった



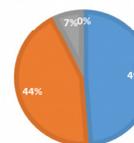
3 学習を通して、東京オリンピックを見に行きたいと思うようになりましたか。

■とても行きたい ■行きたい ■あまり行きたくない ■行きたくない



4 学習を通して、東京パラリンピックを見に行きたいと思うようになりましたか。

■とても行きたい ■行きたい ■あまり行きたくない ■行きたくない



| | |
|-------------------------|---|
| 7実践において工夫した点 (事業の特色) | 本校は、放課後の陸上運動練習や駅伝・マラソン練習を継続して行っており、歩いて数分の場所に宇和島市丸山公園陸上競技場（ガイヤスタジアム）もあるため、陸上競技のオリンピックの招聘を希望した。当日は、走り高跳びのパラリンピアンに体育館にて講演をしていただいた。その後、宇和島市丸山公園陸上競技場（ガイヤスタジアム）に移動し、3ピットに分かれて全員が体験したことがない背面跳びに挑戦した。 |
| 8主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 事業決定が年度途中だったため、綿密な計画を立てることができず、他学年との打合せや他教科と関連付けた学習を十分に実施することができなかった。 (2) 直接パラリンピアンとの打合せができず、事前に講演や実技の内容を把握することができなかったため、講師の意向を十分に反映させることができなかった。また、遠方より来られたため、時間に限りがあることや日程調整も難しかった。 (3) オリンピック・パラリンピックの競技を他にもいろいろ体験させたかったが、道具や安全面、時間の関係でできなかった。 (4) この機会に高まったオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を持続させる方法や、スポーツが苦手な児童に対する支援の在り方を考えていく必要がある。 |
| 9来年度以降の実施予定 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 今年度の反省を生かし、全体計画・年間指導計画を作成し、一部の学年や学級だけで行うのではなく、学校全体で組織的・計画的に実施する。 (2) 児童が、オリンピック・パラリンピックについて質・量ともに十分に学習するための時間を確保する。そのために、教育課程内外を問わず、現在実施している各教科、行事等の中に位置付ける。 (3) 学習の効果を高めるために、映像教材や体験活動、ウェブサイトなどを十分に活用する。 (4) 保護者や地域住民の参加を促す取組や、学校と家庭とが連携する学習方法などを積極的に取り入れる。 |